

小学校第六学年 国語 「新聞記事を書く」

○ 正答例

修学旅行一日目。一班の五人は、一番楽しみにしていた見
 学場所、歴史博物館を訪ねた。竪穴住居に入ったり、石器
 に触れたりするなど、さまざまな体験学習をおこなった。
 一班の全員が大興奮。歓声と笑顔があふれた。
 (九十九字)

○ この問題で身につけてほしい力

- ① いくつかの文章を組み合わせ、目的に合わせて表現する力
- ② 事実と感想・意見などを区別して書く力。

○ 考え方

一 新聞にはさまざまな種類の記事があります。主なものをいくつかあげてみます。

- ア** 事件や出来事を知らせる記事(報道記事)
- イ** 新聞社の責任で伝える意見・主張の記事(社説)
- ウ** 短い評論などの記事(かこみ記事・コラム)
- エ** 出来事や物事を解説する記事(解説)

ア これらには、書き方や構成に、それぞれ特徴があります。問題の新聞記事は、歴史博物館に行ったことを知らせる内容ですから、**ア**が一番近いと考えられます。

報道記事は、事実を中心に書きます。文章としては、書き手の感想や意見などを直接的に書かないように気をつけるとよいでしょう。また、「僕は」「私は」のように自分中心の書き方をしないように気をつけると、ぐっと報道記事らしくなります。「自分たちのことを、外から別の自分が観察している感じ」で書くのです。

リード文を読むことで記事内容の大体をわかってもらう必要があります。例えば次のような視点で書けば、読み手に伝わりやすくなるでしょう。

- ・ 基本的な情報(「5W1H」)
- ・ 出来事の内容

「5W1H」は、文中の様子をわかりやすく伝えるときに、大きな役割を果たします。ただし、**正答例**のように、そのすべてを使わないこともあります。必要に応じて使い分けましょう。

新聞記事のリード文には読み手に「どんな記事だろう」と興味をもってもらおうというねらいがあります。読み手が興味をもてば、リード文を読んだあとに記事にも目を通してくれるからです。そのために、出来事の内容をもちこんで、「読んでみようかな」と読み手の心に働きかけるのもひとつの手段です。

○いつ ○だれ
 修学旅行一日目。一班の五人は、一番楽しみにしていた
 ○どこ ○何をした ○何をした
 見学場所、歴史博物館を訪ねた。竪穴住居に入ったり、
 石器に触れたりするなど、さまざまな体験学習をおこなった。
 一班の全員が大興奮。歓声と笑顔があふれた。

正答例のリード文は、「岩井さんのメモ」から③・④をもとにまとめられています。一方で、①・②を使って、

○いつ ○だれ ○どこ
 六月九日、十日、中央小学校六年生は、宮城県方面へ修
 ○何をした ○だれ
 学旅行に出かけた。一班五名は、一番楽しみに……

と書き出す場合があります。むしろ、リード文としてはこちらが基本的とも言えます。しかし、【修学旅行新聞】の題名に①、②の内容が含まれています。繰り返すことで日付や行き先を強調したいのならかまいません。強調するといった意図がなければ、省略した方がよいでしょう。